

浜 井 信 三 (はまい しんぞう)

吉 岡 勉

(財) 広島市青少年健全育成振興協会専務理事)

明治38年5月広島市に生まれ、大正11年広島高等師範学校附属中学、一高、東京帝国大学法学部を昭和6年に卒業した。在学中から健康を害され、帰郷し専心静養に努め、その甲斐あって招かれて昭和7年広島商工会議所に一旦就職したが、在学中から地方都市行政に興味をもち幾多の文献などを乱読していたようだ。昭和10年9月懇望されて広島市役所に入り、幾多の課長を歴任し、当時としては全国でも珍しい大阪市立大学市政科の諸先生の論文を研究するため府内の専門学校・大学卒業者等に呼びかけて「市政研究会」を組織し、旧弊を改革して新制度を取り入れ市政の改革を目論見て色々な提案を市長に進言した。

あの忌まわしい原爆によって、一瞬全市は壊滅したことは他書等でご案内のとおりである。焼野原に九死一生を得、配給課長として肉親を失った悲しみを乗り越えて市民の食糧の確保、医薬品の確保、衣料その他の調達に獅子奮迅の活躍をされた。20年12月官選の木原市長から強い要請で、助役に就任した。いち早く翌21年1月に戦災復興事業を担当する復興局を創設し、広く各界の声を反映するため市会議員、学識経験者、財界人等をもって



復興審議会を設置した。この早い機会に窮乏財源不足を補うため、市を二分して繁華街を含む東部地域6割を市長執行に西部地区4割を県知事施行とする戦災復興土地区画整理と復興都市計画街路を特別都市計画法の制定にあわせて決定した。かくして新都市計画にもとづく臨水公園として中心部に3万5千坪の平和記念公園を、市を東西に貫く百米道路を始め幹線街路網の確立と下水道計画等都市基盤のすべてが確定した。翌22年4月初代公選市長として弱冠41才で当選した。以来中一期を除き前後四期市長を歴任、思えば占領行政下の昭和24年8月6日わが国で始めて「広島平和記念都市建設法」が衆・参両院議員の満場一致で特別法の制定を見、市にとって打ちでの小槌であった。市長の筆舌に尽くし難い苦労と努力の賜は永遠に語り継がれるであろう。又百米道路は何時の選挙でも攻撃され広すぎる間に縮小し市に市営住宅を建てるとか、河岸緑帯にある不法住宅に強制執行はやらないとか、愚劣な協定を結んだりした。市民は4年間遂に何も出来ないと云う市政の停滞に後悔したようだ。果たせるかな4年後に4万余票差で圧勝した。何が市民のためになるか、全体に奉仕する立場では個人の感情を捨てなければならない。次期のことや票を気にしていたら何も出来ない。かくして戦前を凌ぐ、中国地方第一の雄都に復興したのである。